

株式会社エクストランス

# X-MON 3.0.9

アップデート内容

## 内容

---

新機能 .....	4
X-MON API.....	4
X-MON API アクセスキー .....	6
X-MON API CORS.....	9
SDK .....	11
X-MON 他社製品連携.....	13
Twilio サービスによる障害通知.....	13
Twilio 設定画面 .....	16
サービス監視用コマンドの追加 .....	27
AWS 課金監視、AWS 課金監視 (一括請求アカウント) .....	27
エスカレーションコマンドの追加.....	31
Linux リモートコマンド .....	31
AWS EC2 リスタートコマンド.....	31
Chef との連携 .....	32
fluentd との連携 .....	32
変更.....	34
不具合の修正.....	35
監視メニュー サービス一覧表示.....	35
監視メニュー イベントログ .....	35
監視メニュー 簡易レポート .....	35
監視メニュー ダウンタイム .....	36

監視メニュー サービス情報 .....	36
管理者メニュー SNMP TRAP 管理 .....	36
管理者メニュー 高度な設定 .....	37
グラフチューニング .....	37
管理者メニュー バックアップ管理 .....	37
管理者メニュー 構成管理 .....	37
外部コマンド .....	37
文言修正 .....	38
付録 .....	39
X-MON API 1.0 利用可能メソッド一覧 .....	39

## 新機能

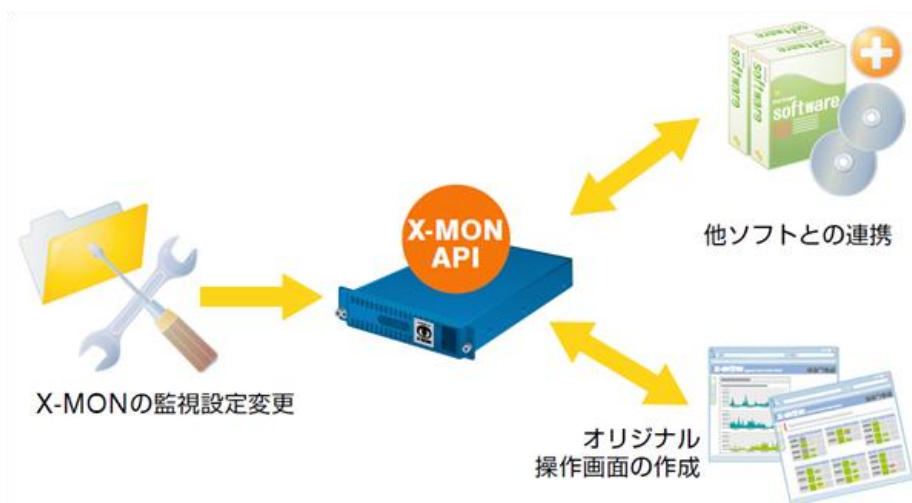
---

### X-MON API

---

API 拡張で、簡単に設定・管理できるようになりました。

X-MON にログインせずに、監視結果の取得や監視設定の変更を行うことが可能です。

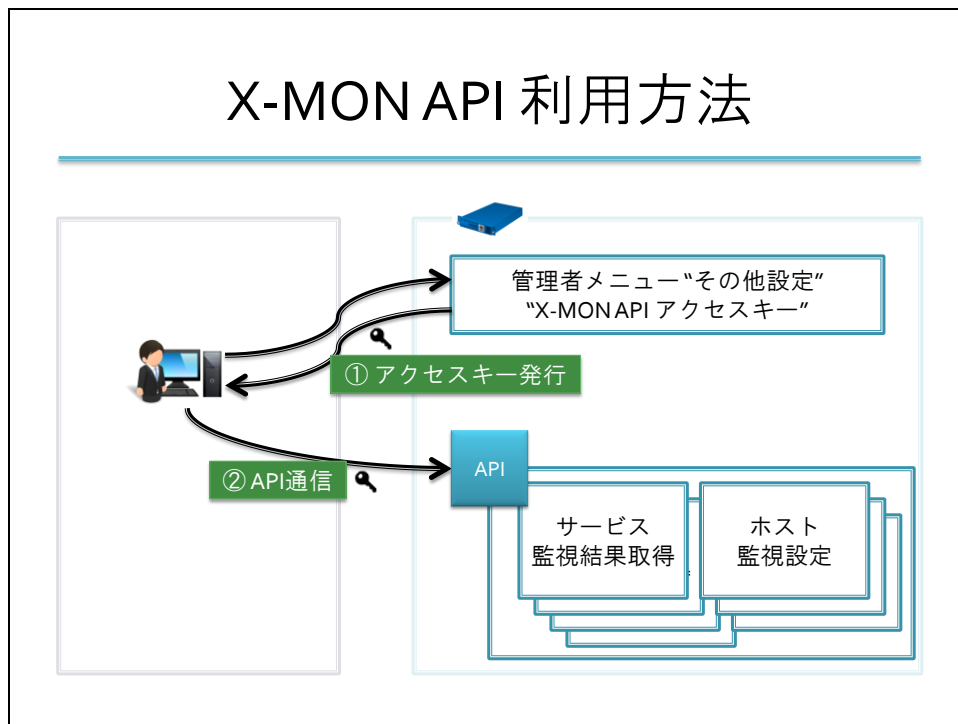


操作可能なリクエストメソッドに関しては、[X-MON API 1.0 利用可能メソッド一覧](#) をご参照ください。

X-MON API は、通信に "ID" と "アクセスキー" を必要とします。"X-MON" サーバの IP アドレスやほしい情報を指定するだけでは利用できません。

ブラウザにて "X-MON" へアクセスするとログイン情報が表示され "ID" と "パスワード" による認証を行うように、API 通信にも "ID" と "アクセスキー" による認証が必要となります。

# X-MON API 利用方法



X-MON API 関連の設定は、"管理者メニュー">"その他設定" より行います。

## X-MON API アクセスキー

X-MON API 機能を利用する場合、アクセスキーを発行する必要があります。



以下、API アクセスキーを発行できるユーザの権限一覧です。

システム管理者	…	○	システム管理者のアクセスキーは発行できます。
運用責任者	…	○	運用責任者のアクセスキーは発行できます。
オペレータ	…	○	オペレータのアクセスキーは発行できます。
閲覧者	…	△	閲覧者のアクセスキーは発行できます。 ただし、ブラウザよりサービス一覧を確認する際同様、表示内容に閲覧制限がございます。 許可されていないホストの閲覧や、外部コマンドの発行などは行えません。
通知ユーザ	…	×	通知ユーザのアクセスキーは発行できません。

X-MON API アクセスキーの発行は一度に纏めて複数人の発行を行えます。

※ 非常に重要な操作になりますので、現在、承認機能は用いておりません。権限 "システム管理者"、"運用責任者" のユーザのみ、発行が可能です。

**X-MON APIアクセスキー**

X-MONでは、ユーザ権限が "閲覧者" の場合に閲覧できるホストに制限をかける項目や、"オペレータ" の場合に監視設定を即時反映できない承認機能が備わっています。  
その為、X-MON APIアクセスキーは、管理者メニュー "ユーザ管理" より登録されたユーザを選択する必要があります。  
発行されたAPIリクエストは、ユーザの権限により利用できるメソッドと利用できないメソッドを分けさせていただいております。

ユーザ名称

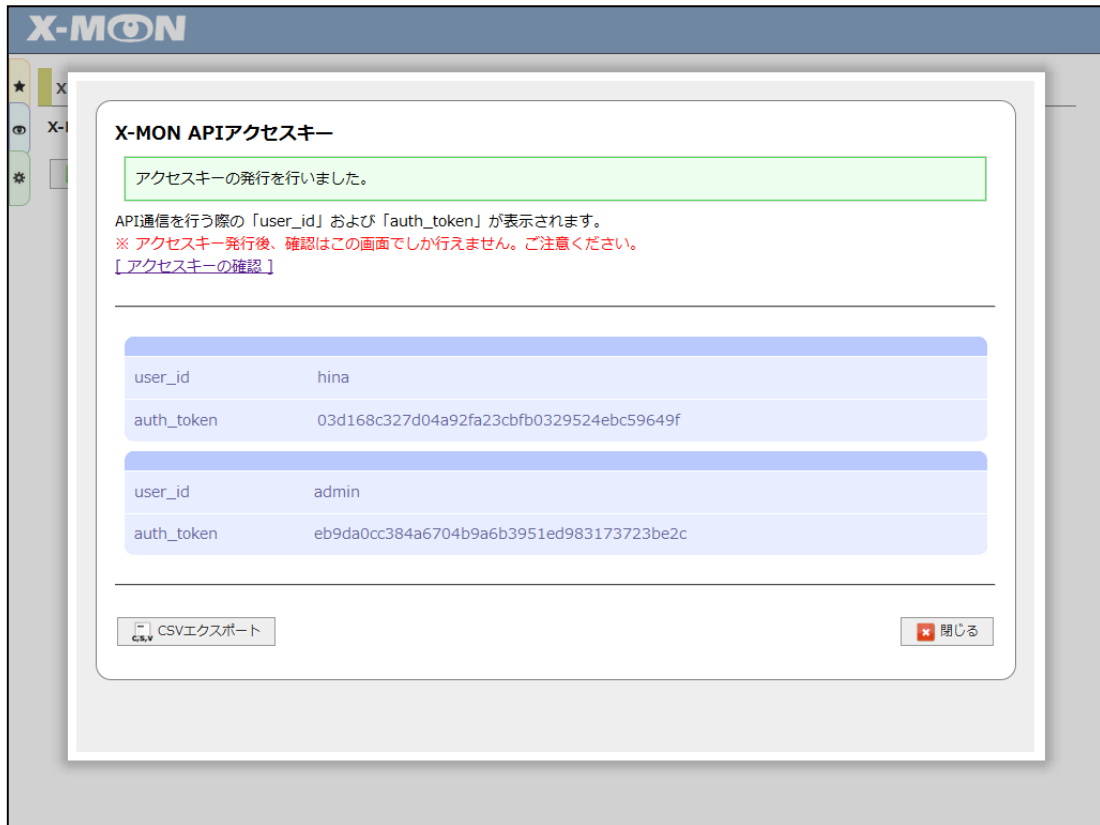
上方 はると (haruto)  
 広山 ひな (hina)  
 阿宮 とよひろ (toyohiro)  
 管理者 (admin)

リクエスト可能期間

指定しない  
 指定する  
2014年 06月 18日 23時59分59秒まで

API アクセスキー発行画面では、以下の2項目を選択する必要があります。

- ・ ユーザ名称  
アクセスキーを発行したいユーザ名横チェックボックスにチェックを入れてください。  
複数人の選択が可能です。
- ・ リクエスト可能期間  
API 通信に利用制限を設ける場合、"指定する" を選択し利用できる期間の指定を行ってください。



[ 作成 ] ボタンをクリックすると、選択したユーザ分、API 通信の利用に必要な情報を生成します。

生成されるものは以下、2 点です。

- user\_id  
ユーザ管理にて、ユーザ登録時に指定した "ユーザ ID (英数字)" 項目が表示されます。
  - auth\_token  
通信用のパスワードです。
- ※ "user\_id" と "auth\_token" の確認は発行時の画面で行えませんがご注意ください。また、[ CSV エクスポート ] ボタンをクリックすると、発行した "user\_id" と "auth\_token" 情報を記載した CSV ファイルをダウンロードできますのでご利用ください。

X-MON API アクセスキーは、1 ユーザに対し 1 アクセスキーのみ発行されます。

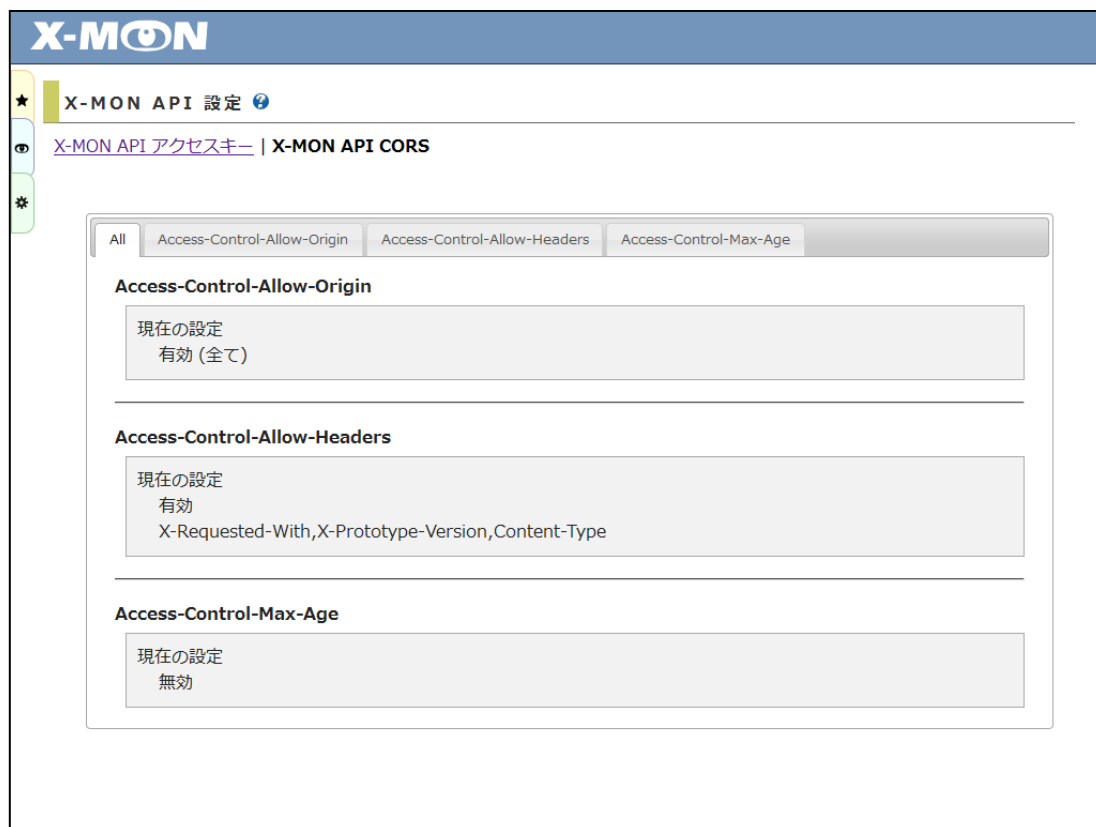
ユーザ管理にて、アクセスキー発行済みのユーザを削除された場合アクセスキーも同時に削除いたします。



## X-MON API CORS

Ajax 通信を行う場合、通常クロスドメイン通信は認められていません。

"CORS (Cross Domain Resource Sharing)" は、通信先(X-MON サーバ)に条件付きで許可をすることでクロスドメイン通信を可能にするための仕組みで、W3C で策定されている仕様です。



クロスドメイン通信時の必須 or 任意ヘッダ情報

Access-Control-Allow-Origin	必須	Ajax 通信を利用する場合、必須
Access-Control-Allow-Headers	任意	利用する javascript ライブラリによっては、必須
Access-Control-Max-Age	任意	

"X-MON API CORS" 設定画面ではタブの切り替えによる画面表示を行います。

以下、それぞれのタブ切り替え画面で表示される内容です。

- All

"Access-Control-Allow-Origin"、"Access-Control-Allow-Headers"、"Access-Control-Max-Age"のタブで設定した内容を表示します。

- Access-Control-Allow-Origin

設定できる選択項目は、"有効 (指定)"、"有効 (全て)"、"無効" の3つです。

有効 (指定)	テキストエリアで指定した IP アドレス、またはドメイン情報とリクエストヘッダオリジンが一致する場合、"Access-Control-Allow-Origin" ヘッダを出力します。 IP アドレスの場合、"192.168.10.32" など単一指定と、"192.168.10.0/24" とサブネットマスクによる範囲指定が行えます。 また,(カンマ)による複数指定が可能です。 リクエストオリジンが "http://192.168.10.32"、テキストエリア指定が "192.168.10.0/24,192.168.13.0/24" と指定されている場合、 "Access-Control-Allow-Origin : http://192.168.10.32" を出力します。
有効 (全て)	"Access-Control-Allow-Origin : *" を出力します。
無効	"Access-Control-Allow-Origin" ヘッダを出力しません。

- Access-Control-Allow-Headers

設定できる選択項目は、"有効 (指定)"、"無効" の2つです。

有効 (指定)	テキストエリアで指定した情報をそのまま出力します。 "X-Requested-With,X-Prototype-Version,Content-Type" と指定した場合、 "Access-Control-Allow-Headers : X-Requested-With,X-Prototype-Version,Content-Type" を出力します。
無効	"Access-Control-Allow-Headers" ヘッダを出力しません。

- Access-Control-Max-Age

設定できる選択項目は、"有効 (指定)"、"無効" の2つです。

有効 (指定)	秒数の指定です。 テキストエリアで指定した情報をそのまま出力します。 "800" と指定した場合、"Access-Control-Max-Age : 800" を出力します。
無効	"Access-Control-Max-Age" ヘッダを出力しません。

API 通信を簡単に行えるように、PHP で作成した SDK ファイルを用意しております。

SDK ファイルにつきましては、X-MON サポートサイトよりダウンロードいただけます。

API マニュアル内で取得可能です。

<https://x-mon.jp/support/>

ダウンロード頂いた PHP ライブラリ(XmonApi.php)をリクエスト送信するサーバに用意していただき、以下のようにクラスを呼び出し、リクエストすると結果を取得することが可能です。

### 利用例

```
<?php
require_once 'XmonApi.php'; // SDK ファイルの呼び出し
// インスタンス生成
$XmonApi = new XmonApi(
    'http://192.168.10.58/1.0/xmon_api.php',
    'admin',
    'ce1ddf8452bd1c10533cf695f4cbe767cccedf5f'
);

try {
    $XmonApi->setMethod('hosts.get'); // 利用メソッドの指定
    // 利用オプションの指定
    $XmonApi->setParams(
        array(
            'key' => 'X-MON'
        )
    );
    // リクエスト
    $res = $XmonApi->request();
    var_dump($res);
} catch (Exception $e) {
    // リクエスト失敗時
```

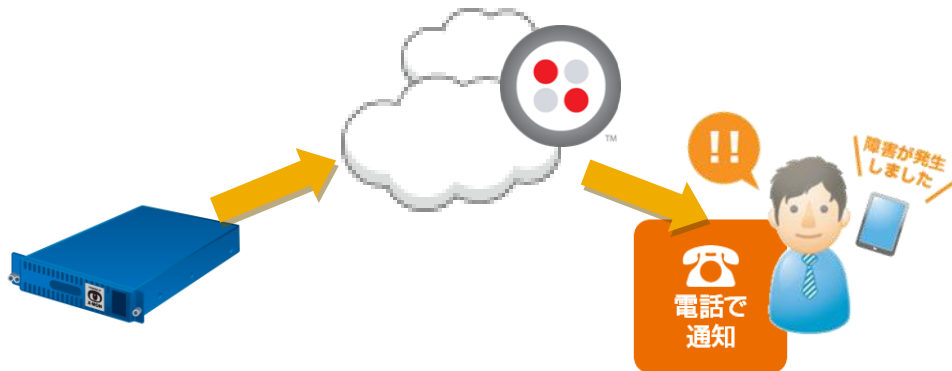
```
echo $e->getMessage();  
}
```

## 実行結果

```
array(3) {  
  ["jsonrpc"]=>  
  string(3) "2.0"  
  ["result"]=>  
  array(1) {  
    [0]=>  
    array(59) {  
      ["id"]=>  
      string(5) "X-MON"  
      ["host_name"]=>  
      string(5) "X-MON"  
      ["alias"]=>  
      string(5) "X-MON"  
      ["address"]=>  
      string(9) "127.0.0.1"  
      ["display_name"]=>  
      NULL  
      ["parents"]=>  
      NULL  
      ["check_command"]=>  
      string(16) "check-host-alive"  
  
      // 省略  
  
      ["initial_state"]=>  
      string(2) "up"  
    }  
  }  
  ["id"]=>  
  string(40) "6a32c8b1bf5b96d7a9ccc5d67708259acdabbf4c"  
}
```

X-MON<sub>3.0.9</sub> より、電話での障害・復旧通知を行えるようになりました。

X-MON サーバに グローバル IP アドレス を割り当てる必要があります。



電話通知を利用する場合、以下の手順で設定を行えます。

- ・ 事前準備
  - 管理者メニュー "ユーザ管理" で電話番号の登録
  - 管理者メニュー "その他設定" で X-MON URL の設定
- ・ Twilio で発行されたアカウント情報の登録 ⇒ [Twilio アカウント情報](#) へ
- ・ 障害時の連絡先や再生するメッセージの設定 ⇒ [Twilio 通話設定](#) へ
- ・ 対象ホスト、またはサービスに設定 ⇒ [ホスト、またはサービスエスカレーション設定](#) へ

## 事前準備

Twilio との連携による電話通知を行う場合、事前準備が必要となります。

### 管理者メニュー "ユーザ管理" で電話番号の登録

Twilio との連携による電話通知先を事前に設定する必要があります。管理者メニュー "ユーザ管理" より行います。

ユーザ情報に、新たに "連絡先電話番号 (Twilio API 連携)" 項目が追加されています。

既に登録されたユーザに関しましては、お手数ですがユーザ情報の編集をお願いいたします。



The screenshot shows the 'X-MON' user management interface. The page title is 'ユーザの編集' (Edit User). The '基本設定' (Basic Settings) section is expanded, showing the following fields:

- ユーザID(英数字): admin
- ユーザ名称: 管理者
- ユーザ権限: システム管理者 (dropdown), パスワード: (input field)
- 閲覧対象ホストグループ:  全て,  以下より選択 (with list management buttons: ↑(選択), ↓(外す), and a '選択して下さい' dropdown)
- 連絡先電話番号 (Twilio API連携): +8180 (input field)

"連絡先電話番号 (Twilio API 連携)" 項目は、国番号付き、-(ハイフン)なしでのご登録をお願いいたします。

例) 日本、電話番号 080-1234-5678 の場合

+818012345678

管理者メニュー "その他設定" で X-MON URL の設定

X-MON URL の設定にて、グローバル IP アドレスの指定をお願いいたします。

## Twilio 設定画面

Twilio 設定画面は、管理者メニュー "他社製品連携" より行います。

X-MON<sub>3.0.9</sub> にて新たに追加されたメニューになります。

The screenshot displays the X-MON administrator interface. On the left, a sidebar menu titled "管理者メニュー" (Administrator Menu) is shown. The menu items include: ホスト管理, 監視/パッケージ管理, 設定一括変更, ネットワークマップ検出, ホストグループ管理, サービスグループ管理, ユーザ管理, ユーザグループ管理, 時刻設定管理, 除外時刻設定管理, アイコン管理, SNMP TRAP管理, syslog管理, 通知メール文書設定, **他社製品連携** (highlighted with a red box), その他設定, 高度な設定, 構成管理, ドキュメント管理, バックアップ管理, 各種設定表示, 設定変更の承認, 設定変更履歴, and X-MON再起動. The main content area shows a status dashboard with a search bar, a table of host statuses (DOWN, UNREACHABLE, PENDING, UNKNOWN, CRITICAL), and a graph titled "PING - 4Hour AVERAGE Ping". On the right, a "未処理の障害" (Unprocessed Incidents) panel lists incidents for IP 192.168.10.250, including "gewag", "PEAK\_ACCESS", "PING", and "UNAUTHORIZED\_ACCESS".



## Twilio アカウント情報

"Twilio" 側で利用している情報を、X-MON に登録します。

⇒ "Twilio" 管理画面へは [こちら](#) より遷移いただけます。

"Twilio" 側で発行されたアカウント情報を X-MON に登録することで、Twilio と連携した電話通知を行うことが可能になります。

登録した Twilio アカウントを用いて、通知先に電話をかけます。



Twilio アカウントは複数登録することができ、通話設定毎に使用する Twilio アカウントと電話番号を切り替えることができます。

なお、X-MON で Twilio アカウントを作成することは出来ません。

Twilio アカウントにつきましては、Twilio のウェブページにて作成してください。

アカウント情報が1つも登録されていない場合、"Twilio 通話設定"、"Twilio メッセージテンプレート"、"Twilio ログ" サブメニューは表示されません。

電話通知を試してみたい場合、トライアルアカウントを登録していただくことで行えます。

ただし、トライアルアカウントの場合、検証済み電話番号にしか電話をかけることができません。[ 検証済み電話番号一覧 ]と[ 全ての検証済み電話番号一覧 ] をクリックし、表示されている電話番号とユーザ管理 "連絡先電話番号 (Twilio API 連携)" 項目の電話番号が一致している状態にしてください。

## Twilio 通話設定

電話通知時の掛け元や掛け先、通知方法などを設定します。

通知設定はホスト及びサービスのエスカレーション設定で利用することで、電話通知を行うことができます。



電話通知の種類には以下の二種類を用意しております。

### 輪番通知

ユーザー一人ずつ順番に通知を行います。

単に通知を受けるだけでなく、障害に対応する人を決めたり、発生している障害を認知済みにすることができます。

### 一斉通知

一斉通知では登録されている宛先全てに一斉に電話通知を行います。

電話に出られなかった場合は、次のエスカレーションが作動するまで電話がかかりません。

X-MON サーバより電話通知を行った際に流れるメッセージの受信直後と通話終了前のメッセージを、ユーザ毎に任意で設定できます。

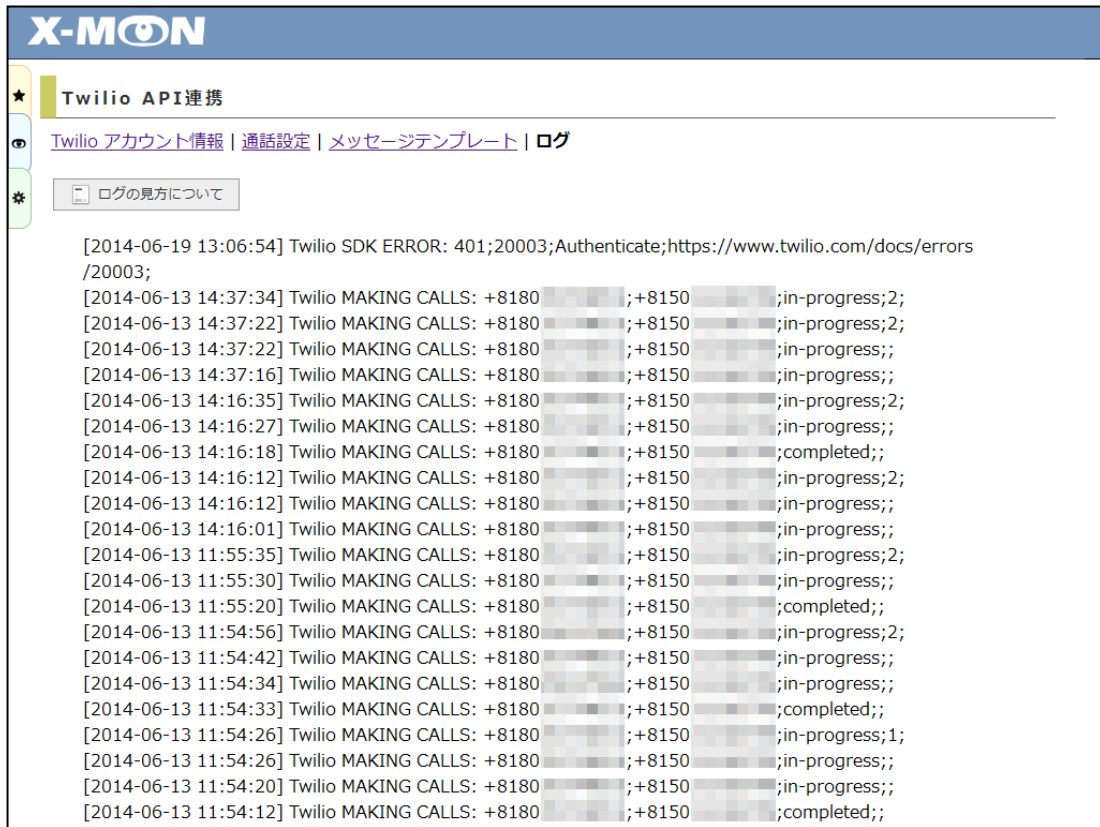
宛先に合わせたメッセージを設定することができます。



また、“再生メッセージ置き換え設定”タブでは、再生メッセージ内のホスト ID 及びサービス ID の読み方を任意の内容に置き換えることが可能です。テキストエリア部分に "TRAFFIC\_Ge1,トラフィック" とご指定いただくと 障害、または復旧通知を行うホスト ID・サービス ID に"TRAFFIC\_Ge1" が含まれていた場合 "トラフィック" と意図したメッセージで読み上げるようになります。

※ 障害時と復旧時で“Twilio メッセージテンプレート”の内容を変更することは出来ませんので、ご注意ください。

Twilio と API 連携を行ったログを表示します。



表示するログの種類は 2 種類です。

- Twilio MAKING CALLS  
障害時、エスカレーション設定より Twilio 通知が動作した時に格納されるログ情報です。
- Twilio SDK ERROR  
Twilio SDK より出力されたエラー情報です。

### Twilio MAKING CALLS

ログフォーマット：[ 日付 ] 種類: To;From;CallStatus;Digits;

To	通話設定で選択した "宛先の電話番号 (To)" です。
From	通話設定で選択した "Twilio 電話番号 (From)" です。

CallStatus	<p>ステータス</p> <p>queued … 通話は発信待ち状態です。</p> <p>ringing … 呼び出し中です。</p> <p>in-progress … 相手が応答し、通話中です。</p> <p>completed … 相手が応答し、通話が正常に終了しました。</p> <p>busy … 相手からビジー信号を受信しました。</p> <p>failed … 通話を接続できませんでした。通常は、ダイヤルした電話番号が存在しません。</p> <p>no-answer … 相手が応答せず、通話が終了しました。</p> <p>canceled … queued または ringing 中に、通話がキャンセルされました。</p>
Digits	通話中に相手が入力したボタンです。

### Twilio SDK ERROR

ログフォーマット[ 日付 ] 種類: Status;Code;Message;Information

Status	HTTP ステータスコードです
Code	このエラーを解決する手がかりとなるコードです。
Message	このエラーに関する、より説明的なメッセージです。
Information	このエラー コードが掲載されている Twilio ユーザー ドキュメントの URL です。

### 電話通知

#### ダイヤル操作で案内されていないボタンを選択した場合

通話開始時同様、一番初めに再生されるホスト、及びサービス件数を再生するガイダンスが流れません。

また、#(シャープ) ボタンだけを選択した場合、電話は切れますがそのまま直ぐ折り返しの電話がかかり直しますのでご注意ください。通話を終了にする場合、9# を選択する必要があります。

#### 音声再生後、#(シャープ) ボタンを選択せず待機した場合

音声再生後のダイヤル操作待機時間は 30 秒となります。それまでに 9 など数字のみ入力していた場合、入力していた数字がダイヤル操作対象とし読み込まれます。

何も操作せず 30 秒がすぎってしまった場合、通話を終了します。その後、直ぐ折り返しの電話がかかり直しますのでご注意ください。

### ホストとサービス、両方で障害が発生した場合

ホストの障害を先に再生し終えた後で、サービスの障害を再生します。

### 同じホスト、または同じサービスで障害と復旧が発生した後電話にでた場合

電話通知で再生される内容は、常に最新の情報が再生されます。

- ・ "障害(未再生)" ⇒ "復旧" の場合、復旧 1 件の通知
- ・ "復旧(未再生)" ⇒ "障害" の場合、障害 1 件の通知

### 一斉通知にて、電話通知中に追加の 障害/復旧 が発生した場合

ダイヤル操作 9# にて通話終了した場合、追加分の 障害/復旧 通知が再度かかります。

詳細情報の再生や繰り返し再生を行った場合、追加分の 障害/復旧 通知も纏めて再生します。

### 電話通知(呼び出し中)に対し、誤って電源ボタンを押してしまった(着信拒否してしまった) 場合

数秒後に折り返しの電話がかかります。ただし 1 度目の着信とは異なり、画面上に Twilio 電話番号が表示されず、"非通知設定" や "通知不可能" と表示される場合がございます。こちら、Twilio 側の仕様ではなく、電話が着信される電話事業者側や、電話機の仕様の差異からくる事象となります。

### エスカレーション設定に、一斉通知と輪番通知両方を同タイミングで指定した場合

一斉通知、輪番通知どちらもハード障害 1 回目から実行するように設定されますと、仕様上両方の電話がかかります。一斉通知と輪番通知のメッセージ内容は集約されない為、同じ内容が 2 度再生されることとなりますのでご注意ください。

### 携帯端末が留守番電話サービスを利用している場合

Twilio による電話通知によって留守番電話が作動すると、ダイヤル操作 9# を行えない為、電話通知が止まらなくなります。

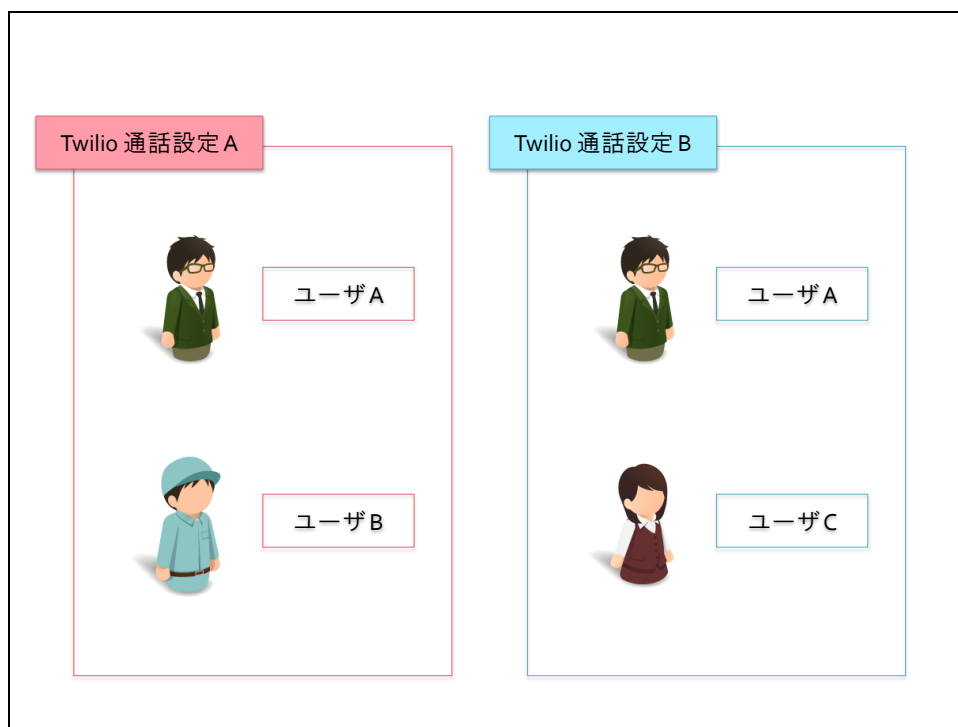
留守番電話が作動しないように携帯端末の設定を行っていただくか、"通話設定" 画面 "呼び出しを行い続ける秒数" 項目を留守番電話が作動する時間より短い時間での設定をお願いいたします。

同じホスト、またはサービスに"Twilio 通知設定" を複数設定していた場合

あくまで電話を鳴らす回数は、"Twilio 通話設定" で登録した設定単位です。

以下、例になります。

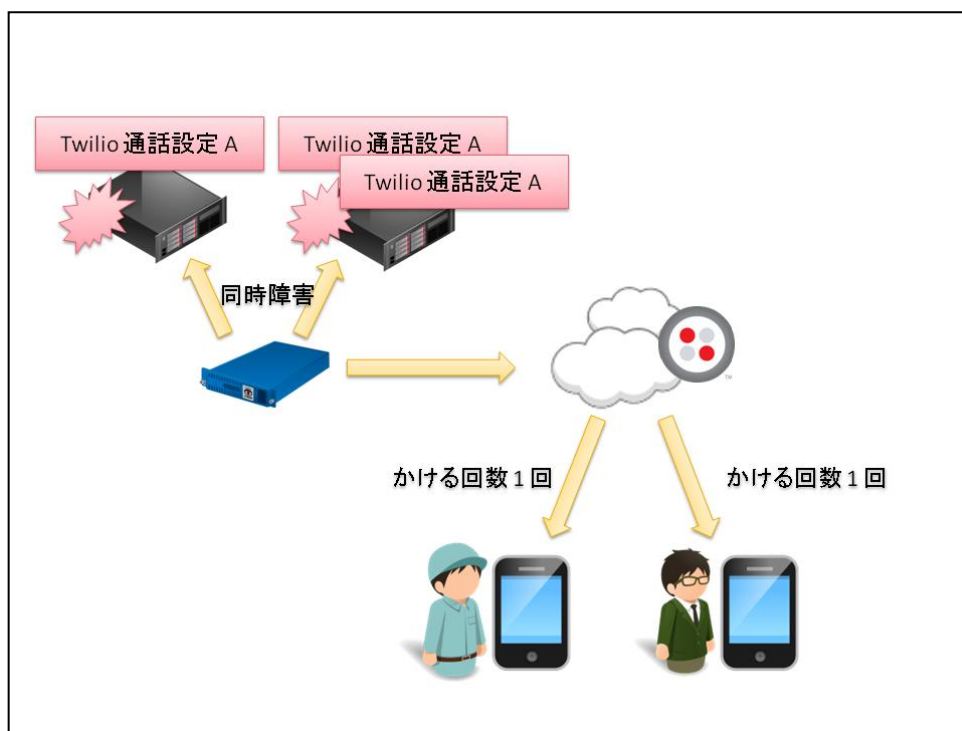
"Twilio 通話設定" で設定登録した情報は以下の 2 点です。



- Twilio 通話設定 A  
この設定情報をエスカレーション設定で利用すると、ユーザ A とユーザ B に電話通知を行います。
- Twilio 通話設定 B  
この設定情報をエスカレーション設定で利用すると、ユーザ A とユーザ C に電話通知を行います。



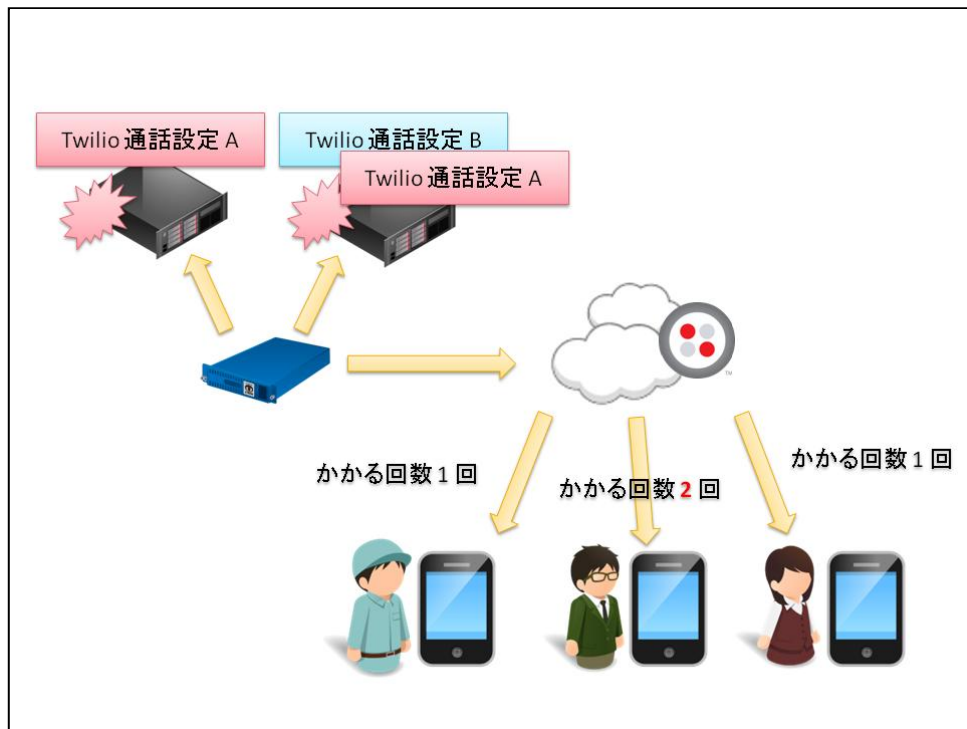
"Twilio 通話設定" より登録情報1つを1台のホスト、または複数台ホストに設定した場合、受話中にどれだけ復旧・障害を繰り返しても電話は集約されます。



例のようにエスカレーションパネルを2つに増やし、同じ Twilio 通話設定 を利用するように設定を行っても、かかる回数はユーザ A、ユーザ B とともに1回です。

※ 同時障害でなく、通話中に別サーバにて障害が発生し、障害件数、または障害内容にとりこまれないまま終了した場合、障害報告が出来ていない分は折り返します。

"Twilio 通話設定" より登録情報 2 つを 1 台のホスト、または複数台ホストに設定した場合、設定されている "Twilio 通話設定" が異なると別電話扱いになる為、折り返しの電話がかかりません。



先程のパターンと異なり、"Twilio 通話設定 A" を利用した電話障害の内容を確認中であったとしても "Twilio 通話設定 B" の内容が集約されることはありません。"Twilio 通話設定 A"

#### ダイヤル操作 3# を行った場合、どこまで認知済みになるか

「障害の詳細」を聞いた際に含まれていたホスト、サービスのみ認知済みになります。

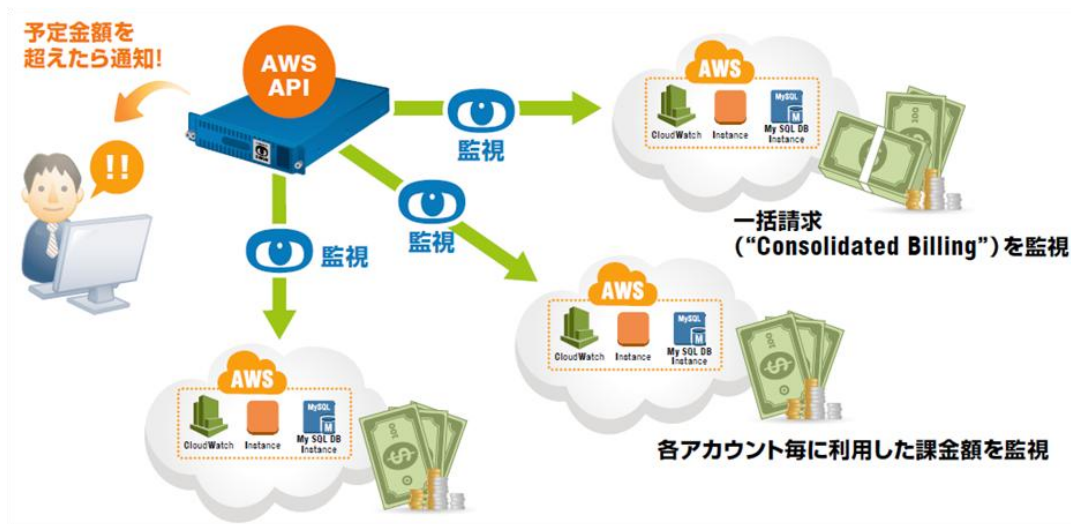
また、外部コマンド履歴には、ユーザ管理で登録を行ったユーザ ID を利用します。

例)

- ・ ユーザ A(ユーザ ID : user\_a、電話番号+8180\*\*\*\*\*\*)へ着信後、受話し認知済み操作を行う。
- ・ 該当のホスト、サービスが "認知済み" 状態になる。
- ・ 外部コマンドを確認すると、発行者が user\_a になっている。

### AWS 課金監視、AWS 課金監視 (一括請求アカウント)

AWS CloudWatch で確認できる課金額の監視が行えるようになりました。



監視方法は 2 種類 です。

- ① 一括請求 (コンソリデーティッドビルディング) アカウントの場合、一括請求課金額を監視できます。
- ② 個別で利用した課金額を取得できます。

以下、新たに追加いたしました "サービス監視用コマンド" です。

- ・ AWS サービス監視

AWS 課金監視

AWS 課金監視 (一括請求アカウント)

AWS 課金監視では、ホスト登録時に指定した "AWS・アクセスキー" と "AWS・シークレットキー" を利用し、課金額を取得します。

サービス登録時に指定できる項目は、"WARNING しきい値 (\$)"、"CRITICAL しきい値 (\$)"、"サービス別取得" です。

The screenshot shows the X-MON interface for service registration. The 'サービス監視用コマンド' (Service Monitoring Command) section is highlighted with a red box. It includes a dropdown menu for 'AWSサービス監視', another dropdown for 'AWS課金監視', two input fields for 'WARNINGしきい値 (\$)' and 'CRITICALしきい値 (\$)', and a 'サービス別取得' (Service-specific acquisition) field containing 'AmazonS3,AWSDataTransfer,AmazonSNS,'. Below this section is the '通知先グループ' (Notification recipient group) section with a list box, '↑(選択)' (Select) and '↓(外す)' (Exclude) buttons, and a '選択して下さい' (Please select) dropdown. At the bottom, there is an 'イベントハンドラ' (Event handler) section with a '有効にする' (Enable) dropdown and an 'イベントハンドラコマンド' (Event handler command) field.

"サービス別取得" 項目は、特定のサービスのみの課金額を取得したい場合に AWS サービス名を指定します。

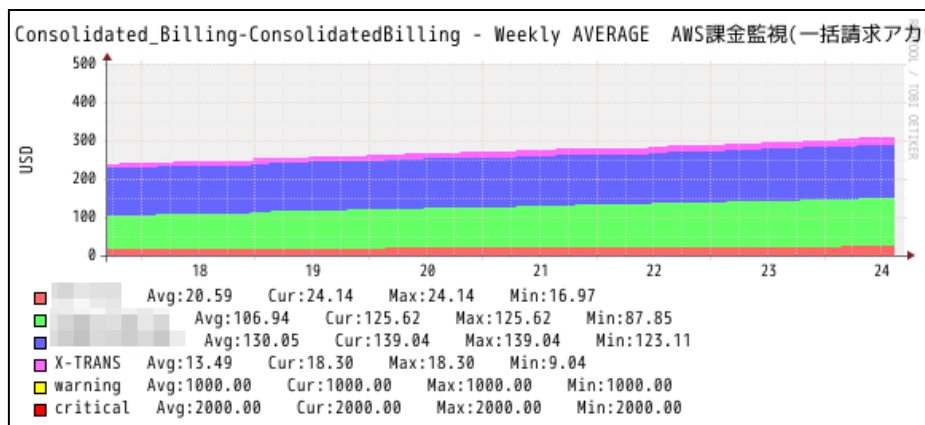
複数指定したい場合「,(カンマ)」区切りで入力してください。

こちら "AWS 課金監視" をプルダウンで選択すると、AWS API リクエストを発行し、利用しているサービス名を ,(カンマ) 区切りで表示します。

※ 全サービスの課金額を取得する必要があるため、監視登録時以降に利用するサービスがある場合、"サービス別取得" 項目を未入力にすることを推奨します。未入力の場合、途中でサービスが追加されたとしても、追加された状態の課金額を取得します。

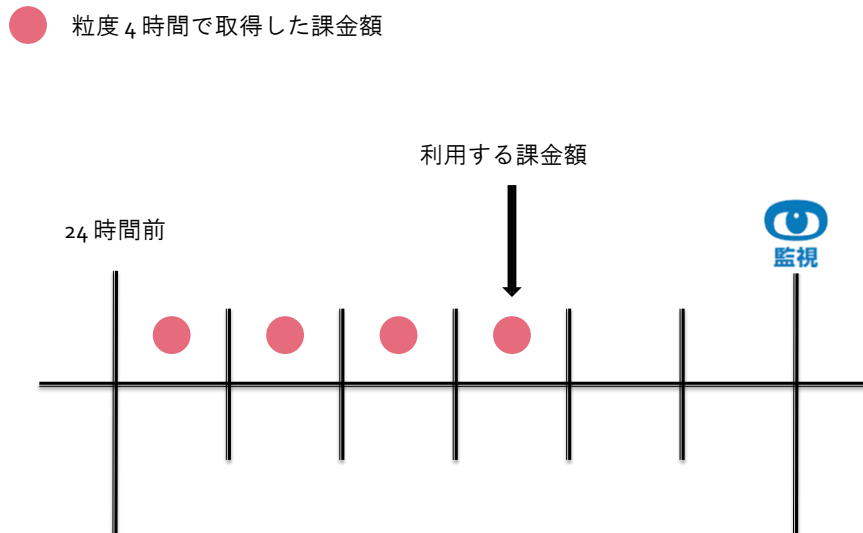
課金額が指定したしきい値を超えた場合、障害として扱います。勿論、従来の監視同様、メールでの通知も可能です。

※ 監視結果の通貨、WARNING・CRITICAL しきい値の通貨は \$(ドル) 表示、指定のみ行えます。



CloudWatch では、3~9 時間程度の間隔で課金額の値が更新されます。

その為、X-MON の監視では監視時刻より 24 時間前までを課金額取得範囲、粒度を 4 時間に指定し課金額を取得します。取得した課金額のうち一番監視を行った時間に近い値を監視結果として利用しています。



AWS 課金監視 (一括請求アカウント) でも同様に、ホスト登録時に指定した "AWS・アクセスキー" と "AWS・シークレットキー" を利用し、課金額を取得します。

ただし、この監視を使用する場合、"AWS・アクセスキー" と "AWS・シークレットキー" には一括請求 (コンソリデेटィッドビルディング) アカウントを指定する必要があります。

また、グラフに表示されるアカウント ID や、パフォーマンスデータ情報に表示されるアカウント ID はマスキングを施しております。

こちら "アカウント ID" は IAM ユーザのログイン URL に利用されている為、第三者に見られないようにするための処理となります。"アカウント ID" をマスキングせず、表示する場合や別名で表示する場合、"グラフチューニング" より変更をお願いいたします。

## エスカレーションコマンドの追加

---

新たに X-MON3.0.9 より、以下 2 点のエスカレーション実行コマンドを追加しました。

- Linux リモートコマンド
- AWS EC2 リスタートコマンド

---

### Linux リモートコマンド

---

Linux のリモートコマンド用プログラムを用意いたしました。

指定した Linux サーバへ SSH ログインを行い、コマンドの実行を行うプログラムです。

再起動処理を想定した "linux\_restart" とは違い、障害時だけでなく復旧時もコマンドの実行が可能となっている為、"Chef" との連携にもご利用いただけます。

詳しくは、X-MON ヘルプ 付録集 初期エスカレーションコマンドをご確認ください。

---

### AWS EC2 リスタートコマンド

---

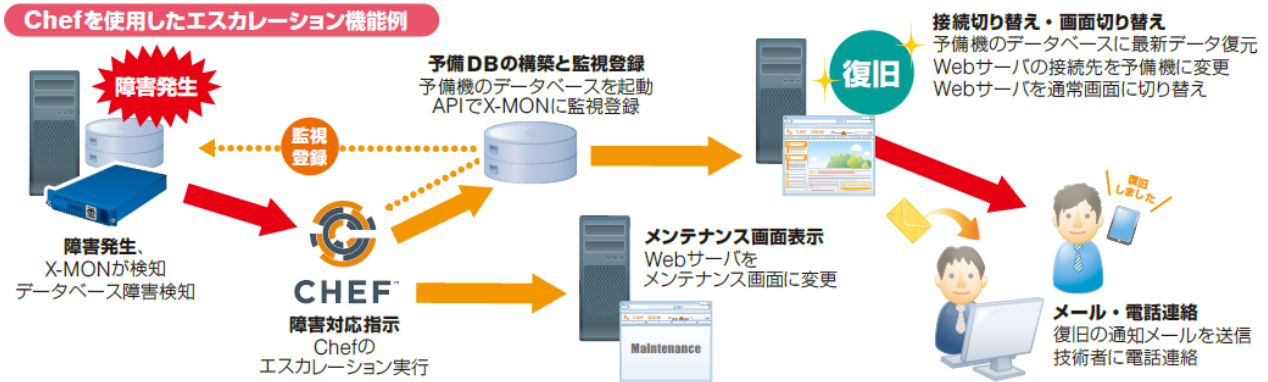
指定した AWS(Amazon Web Services) の EC2 インスタンスを再起動するプログラムを用意いたしました。

対象の EC2 インスタンスが "running" 状態の時は再起動の実行、EC2 インスタンスが "stop" 状態の時は起動の実行を試みます。

詳しくは、X-MON ヘルプ 付録集 初期エスカレーションコマンドをご確認ください。

## Chef との連携

障害発生時、Chef と連携することで予備 DB を構築、接続切り替え、メンテナンス画面の表示などが行えます。



また、他にも X-MON API を活用し、Chef より X-MON に対しホスト・サービスの登録処理を行えます。

Chef 設定ガイド、X-MON ホスト・サービス用 Cookbook、及びドキュメントをサポートサイトより配布しております。

<https://x-mon.jp/support/>

## fluentd との連携

fluentd でシステムログやアプリケーションログ、ネットワーク機器のログなど多様なログを集約し、X-MON で監視を行います。

ログで出力された文字列の監視はもちろん、ログの集計結果を元に監視を行うことも可能です。

●集約されたログは、テキストファイルを始め各種 DBMS、S<sub>3</sub> など多種多様な方法で蓄積されます。



※ fluentd はログの入出力をプラグインで行っており、必要に応じて fluentd サーバにインストールする必要があります。

※ Windows サーバ及びネットワーク機器のログにつきましては、fluentd サーバに syslog 経由で転送を行う必要があります。

X-MON と連携して監視を行うためには、X-MON サポートサイトにて配布しておりますプラグインをインストールして頂く必要があります。

<https://x-mon.jp/support/>

## 変更

"サービス監視用コマンド" のマスクング部分を表示、非表示が切り替えられるようになりました。

The screenshot shows the X-MON configuration interface. The 'サービス監視用コマンド' (Service Monitoring Command) section is expanded, showing various configuration fields. A red box highlights a button labeled '表示/非表示切り替え' (Show/Hide Toggle) located next to the 'BASIC認証パスワード' (Basic Authentication Password) field, which is currently masked with dots.

サービス監視用コマンド	
Webサービス監視	▼
HTTP IPベースバーチャルホストの監視	▼
IPアドレス	<input type="text"/>
URLパス	<input type="text" value="/index.html"/>
ポート番号	<input type="text" value="80"/>
BASIC認証ユーザ名	<input type="text" value="none"/>
BASIC認証パスワード	<input type="password" value="●●●●"/> <span>表示/非表示切り替え</span>
タイムアウト(秒)	<input type="text" value="10"/>
応答時間WARNINGしきい値(秒)	<input type="text" value="4"/>
応答時間CRITICALしきい値(秒)	<input type="text" value="8"/>
HTTPステータスコードの指定	<input type="text" value="無効 ▼"/>
HTTPステータスコード	<input type="text"/>
検出文字列	<input type="text"/>

マスクングされている項目は、全て項目横に [ 表示/非表示切り替え ] ボタンが追加されています。

こちらのボタンを操作していただくことで、入力されている値をマスクング表示とマスクング表示を解除した値での表示を切り替えることが可能です。

## 不具合の修正

---

### 監視メニュー サービス一覧表示

---

- "WMIによるWindowsイベントログ監視"にて引数"エラーステータス"項目で、"CRITICAL"を指定しない限り"サービス一覧表示 ステータス情報"項目に対象ログ(管理者メニュー"Windowsイベントログ警告管理")へのリンクが表示されない不具合の修正
  - > 該当するログデータが存在する場合、監視ステータスに関わらずリンクを表示するように修正
- "ホストリソース表示、サービスリソース表示"にて下限を「1」までしか設定できない不具合の修正
  - > 下限値「0」まで指定できるように修正

### 監視メニュー イベントログ

---

- 監視メニュー"サービス情報"画面より、"イベントログ"画面へ遷移後、ページャでの遷移を行うと、対象ホストに含まれる全サービスのログ情報が表示されてしまう不具合の修正
  - > ページャ遷移を行っても、サービスの絞り込みが外れないよう修正

### 監視メニュー 簡易レポート

---

- カスタムグラフのみ指定した定期生成設定を利用する場合、レポートが生成されない不具合の修正
  - > カスタムグラフのみが選択されている定期生成設定もレポートが生成されるように修正
- レポート閲覧画面にて表示される"最終編集日時"が更新されない不具合の修正
- 期間指定の開始時刻が「23時31分～00期生成設定の次回生成日時が実際に定期生成処理の動作する時刻とは異なる不具合の修正
  - > 実際に定期生成処理が動作する時刻を表示するように修正。  
表示側の問題となるため、実際に動作する処理自体には問題はない不具合となります。
- 簡易レポートを編集後の保存時に、ロックをかけ通知しない設定にしても「ユーザ保存レポート一覧」に「通知履歴」ボタンが表示される不具合の修正
- 簡易レポートの作成時、「編集のロック」項目で「レポートの編集を許可しない」を選択し、メール通知を行う設定を選択すると「ユーザ保存レポート一覧」に「通知履歴」ボタンが表示

されるが、レポートの「編集ロックの解除」を行うと「通知履歴」ボタンが表示されなくなる不具合の修正

> レポート生成のメール通知ログが存在するレポートに対してのみ「ユーザ通知レポート一覧」に「通知履歴」ボタンを表示するよう修正

■ 簡易レポート作成後、F5 キーで更新を行うとレポートが多重に作成される不具合の修正

> リロード対策を実施し、多重に保存処理が行われないう修正。

■ 簡易レポート作成時、「グラフ選択」にて「ホストの全サービスを追加する」を選択すると、グラフが生成されないサービスも追加されてしまい、定期生成レポート作成でレポートの作成に失敗してしまう不具合の修正

> 「ホストの全サービスを追加する」で選ばれるサービスの判定にグラフ生成の有無を加え、グラフが生成されないサービスについては追加しないように修正

■ 「グラフ選択」にて VMWare 監視のホスト系監視のサービスが表示されない不具合の修正

> VMware 監視のホスト系監視を使用しているサービスを表示するよう修正。

## 監視メニュー ダウンタイム

---

■ 2500 サービスなど大量のダウンタイム設定を行うと、内部ではダウンタイムが正常に動作しているが、ダウンタイム一覧画面に対象のサービスが全て表示されない不具合の修正

> 取得している情報を必要最低限の情報にすることで、表示件数を増加

## 監視メニュー サービス情報

---

■ 障害状態のサービス情報画面で、認知済みアイコンが表示されない不具合の修正

> CRITICAL 時のみ、HARD 状況でしか認知済みのコマンドが実行できなくなっていたため WARNING/UNKNOWN/CRITICAL 時の SOFT 状態でも認知済み処理が可能な状態にするよう変更

## 管理者メニュー SNMP TRAP 管理

---

■ MIB ファイルの定義名に "()"半角括弧" が含まれる場合、登録完了時に "登録が完了しました" と表示され、内部的に登録されていない不具合の修正

- > X-MON の仕様として登録できないため、エラーで弾くよう修正

## 管理者メニュー 高度な設定

---

### グラフチューニング

---

- VMware ホスト監視、VMware ハードウェア監視にて最小値、最大値を設定後、再遷移すると、入力した値が指数表記で表示される不具合の修正
  - > 表示時に指数表記に置き変わらないよう修正

## 管理者メニュー バックアップ管理

---

- ダッシュボードに表示される "外部リンク" がバックアップに含まれていなかった不具合
  - > X-MON3.0.9 よりバックアップ対象として含めるよう修正

## 管理者メニュー 構成管理

---

- 2U 以上のホストをラックに登録しても 2U として扱われず、1U として表示される不具合の修正
  - > ラックに設置時に正しく情報が登録されるよう修正
  - > 3.0.8 にてすでにラック設定情報が誤って登録されてしまっている情報の修正
- ラック情報にて同じ個所にホストを複数設置すると、画面の表示が崩れる不具合の修正
  - > 同じユニットに複数ホストを設置した場合に、正しく画面に表示されるよう修正

## 外部コマンド

---

- 「ホストパッシブチェック」及び「サービスパッシブチェック」コマンドの発行時の「チェック出力」項目に「0(ゼロ)」を入力した場合、値が入力されていないと判別されてしまい、外部コマンドの実行が行われない不具合の修正

- > 「0(ゼロ)」を入力した場合は、チェック出力を「0(ゼロ)」の状態にコマンドが実行されるよう修正
  
- 「ホスト/サービス通知を遅らせる」コマンドの実行時に「通知を遅らせる時間」項目に指定出来ない数値を入力した際にエラーとならない不具合の修正
  - > 「通知を遅らせる時間」に「0(ゼロ)」以下の数値が入力された場合はエラーとするよう修正。
  
- 「ホスト/サービス通知を遅らせる」コマンドの実行時に「通知を遅らせる時間」項目に数値以外の値を入力した際のエラーメッセージの修正
  - > 指定出来ない値を入力した際に適切なエラーメッセージを出力するよう修正。
  
- 外部コマンド発行画面にて、入力項目に全角英数字を入力すると、半角数字に置き変わらずに登録されてしまう不具合の修正
  - > 全角英数字を半角英数字に置き換える処理及び文字列の前後のスペースを除く処理を追加

## 文言修正

---

一部、文言の修正を行いました。

## 付録

### X-MON API 1.0 利用可能メソッド一覧

#### 1. 監視

comment	.get	コメント
downtime	.get	ダウンタイム
eventlog	.get	イベントログ
externalcommand	.get	外部コマンド履歴
hoststatus	.get	ホスト一覧表示
notifications	.get	通知履歴
processInformation	.get	プロセス情報
schedule	.get	スケジュール
status	.get	サービス一覧表示
tac	.get	監視概要

#### 2. 設定

contactgroup	.get	ユーザグループ管理 - ユーザグループ一覧
contactgroup	.add	ユーザグループ管理 - ユーザグループの作成
contactgroup	.update	ユーザグループ管理 - ユーザグループの編集
contactgroup	.delete	ユーザグループ管理 - ユーザグループの削除
contactgroup	.exist	ユーザグループ管理 - ユーザグループの存在確認
contacts	.get	ユーザ管理 - ユーザ一覧
contacts	.add	ユーザ管理 - ユーザの作成
contacts	.update	ユーザ管理 - ユーザの編集
contacts	.delete	ユーザ管理 - ユーザの削除
contacts	.exist	ユーザ管理 - ユーザの存在確認
hostgroup	.get	ホストグループ管理 - ホストグループ一覧
hostgroup	.add	ホストグループ管理 - ホストグループの作成
hostgroup	.update	ホストグループ管理 - ホストグループの編集
hostgroup	.delete	ホストグループ管理 - ホストグループの削除
hostgroup	.exist	ホストグループ管理 - ホストグループの存在確認
hosts	.get	ホスト管理 - ホスト一覧
hosts	.exist	ホストの存在確認

hosts	.add	ホスト管理 - ホストの作成
hosts	.update	ホスト管理 - ホストの編集
hosts	.delete	ホスト管理 - ホストの削除
services	.get	ホスト管理 - サービス一覧
services	.add	ホスト管理 - サービスの作成
services	.exist	サービスの存在確認
services	.update	ホスト管理 - サービスの編集
services	.delete	ホスト管理 - サービスの削除
timeexclude	.get	除外時刻設定管理 - 除外時刻設定一覧
timeexclude	.add	除外時刻設定管理 - 除外時刻設定の作成
timeexclude	.update	除外時刻設定管理 - 除外時刻設定の編集
timeexclude	.delete	除外時刻設定管理 - 除外時刻設定の削除
timeperiod	.get	時刻設定管理 - 時刻設定一覧
timeperiod	.add	時刻設定管理 - 時刻設定の作成
timeperiod	.update	時刻設定管理 - 時刻設定の編集
timeperiod	.delete	時刻設定管理 - 時刻設定の削除

### 3. コマンド

#### \* commandComment \*

cmd_del_all_host_comments	.set	ホストの全ての外部コマンド履歴を削除する
cmd_del_all_svc_comments	.set	全ての外部コマンド履歴を削除する
cmd_del_host_comment	.set	ホストのコメントを削除する
cmd_del_svc_comment	.set	サービスのコメントを削除する

#### \* commandPerformance \*

cmd_disable_performance_data	.set	パフォーマンスデータ処理を無効にする
cmd_enable_performance_data	.set	パフォーマンスデータ処理を有効にする

#### \* commandCheckSchedule \*

cmd_schedule_host_check	.set	このホストの動作チェックを次回スケジュールに追加
cmd_schedule_host_svc_checks	.set	ホストの全てのサービスチェックを再スケジュール
cmd_schedule_svc_check	.set	このサービスの動作チェックを次回スケジュールに追加

#### \* commandCheckAcknowledge \*

cmd_acknowledge_host_problem	.set	ホストの問題を既知にする
cmd_acknowledge_svc_problem	.set	この問題を認知済にする
cmd_remove_host_acknowledgement	.set	ホストの認知済を解除する



cmd_remove_svc_acknowledgement	.set	認知済を解除する
<b>* commandNotification *</b>		
cmd_delay_host_notification	.set	次のホスト通知及びエスカレーションを遅らせる
cmd_delay_svc_notification	.set	次のサービス通知及びエスカレーションを遅らせる
cmd_disable_hostgroup_host_notifications	.set	特定ホストグループの全ホストの通知及びエスカレーションを無効にする
cmd_disable_hostgroup_svc_notifications	.set	特定ホストグループの全サービスの通知及びエスカレーションを無効にする
cmd_disable_host_notifications	.set	ホストの通知及びエスカレーションを無効にする
cmd_disable_host_svc_notifications	.set	ホスト上の全サービスの通知及びエスカレーションを無効にする
cmd_disable_notifications	.set	通知及びエスカレーションを無効にする
cmd_disable_servicegroup_host_notifications	.set	指定したサービスグループ上の全ての通知及びエスカレーションを無効にする
cmd_disable_servicegroup_svc_notifications	.set	指定したサービスグループ上の全サービスの通知及びエスカレーションを無効にする
cmd_disable_svc_notifications	.set	このサービスの通知及びエスカレーションを無効
cmd_enable_hostgroup_host_notifications	.set	特定ホストグループの全ホストの通知及びエスカレーションを有効にする
cmd_enable_hostgroup_svc_notifications	.set	特定ホストグループ上の全サービスの通知及びエスカレーションを有効にする
cmd_enable_host_notifications	.set	ホストの通知及びエスカレーションを有効にする
cmd_enable_host_svc_notifications	.set	ホスト上の全サービスの通知及びエスカレーションを有効にする
cmd_enable_notifications	.set	通知及びエスカレーションを有効にする
cmd_enable_svc_notifications	.set	このサービスの通知及びエスカレーションを有効
cmd_enable_servicegroup_svc_notifications	.set	指定したサービスグループ上の全サービスの通知及びエスカレーションを有効にする
cmd_enable_servicegroup_host_notifications	.set	指定したサービスグループ上の全ホストの通知及びエスカレーションを有効にする
cmd_send_custom_host_notification	.set	ホストへ今すぐ通知及びエスカレーションを実行する
cmd_send_custom_svc_notification	.set	サービスへ今すぐ通知及びエスカレーションを実行する
<b>* commandDowntime *</b>		
cmd_del_host_downtime	.set	ホストのダウンタイムをキャンセルする
cmd_del_svc_downtime	.set	サービスのダウンタイムをキャンセルする
cmd_schedule_and_propagate_host_downtime	.set	ホストのダウンタイムと、ダウンタイムをトリガとしていない全ての子ホストをスケジュールする
cmd_schedule_and_propagate_triggered_host_downtime	.set	ホストのダウンタイムと、ダウンタイムをトリガとする全ての子ホストをスケジュールする

cmd_schedule_host_downtime	.set	このホストのダウンタイムをスケジュール
cmd_schedule_hostgroup_host_downtime	.set	特定ホストグループの全ホストにダウンタイムを設定する
cmd_schedule_hostgroup_svc_downtime	.set	特定ホストグループの全サービスにダウンタイムを設定する
cmd_schedule_host_svc_downtime	.set	このホストの全サービスのダウンタイムをスケジュール
cmd_schedule_servicegroup_host_downtime	.set	指定したサービスグループ上のホストのダウンタイムをスケジュールに追加する
cmd_schedule_servicegroup_svc_downtime	.set	指定したサービスグループ上のサービスのダウンタイムをスケジュールに追加する
cmd_schedule_svc_downtime	.set	このサービスのダウンタイムをスケジュール
<b>* commandFlapDetection *</b>		
cmd_disable_flap_detection	.set	フラップ検知を無効にする
cmd_disable_host_flap_detection	.set	このホストのフラップ検知を無効
cmd_disable_svc_flap_detection	.set	このサービスのフラップ検知を無効
cmd_enable_flap_detection	.set	フラップ検知を有効にする
cmd_enable_host_flap_detection	.set	このホストのフラップ検知を有効
cmd_enable_svc_flap_detection	.set	このサービスのフラップ検知を有効
<b>* commandEventHandler *</b>		
cmd_disable_event_handlers	.set	イベントハンドラを無効にする
cmd_disable_host_event_handler	.set	このホストのイベントハンドラを無効
cmd_disable_svc_event_handler	.set	このサービスのイベントハンドラを無効
cmd_enable_event_handlers	.set	イベントハンドラを有効にする
cmd_enable_host_event_handler	.set	このホストのイベントハンドラを有効
cmd_enable_svc_event_handler	.set	このサービスのイベントハンドラを有効
<b>* commandPassiveCheck *</b>		
cmd_start_accepting_passive_host_checks	.set	パッシブホストのチェックを開始する
cmd_start_accepting_passive_svc_checks	.set	パッシブサービスチェックを開始する
cmd_stop_accepting_passive_host_checks	.set	パッシブホストのチェックを停止する
cmd_stop_accepting_passive_svc_checks	.set	パッシブサービスチェックを停止する
cmd_disable_passive_host_checks	.set	このホストのパッシブチェックを停止
cmd_disable_passive_svc_checks	.set	このサービスのパッシブチェックを停止
cmd_enable_passive_host_checks	.set	このホストのパッシブチェックを開始

cmd_enable_passive_svc_checks	.set	このサービスのパッシブチェックを開始
<b>* commandObsessing *</b>		
cmd_start_obsessing_over_host_checks	.set	ホストの分散監視送信を開始する
cmd_start_obsessing_over_host	.set	このホストの Obsessing Over を開始
cmd_start_obsessing_over_svc_checks	.set	サービスの分散監視送信を開始する
cmd_start_obsessing_over_svc	.set	このサービスの Obsessing Over を開始
cmd_stop_obsessing_over_host_checks	.set	ホストの分散監視送信を停止する
cmd_stop_obsessing_over_host	.set	このホストの Obsessing Over を停止
cmd_stop_obsessing_over_svc_checks	.set	サービスの分散監視送信を停止する
cmd_stop_obsessing_over_svc	.set	このサービスの Obsessing Over を停止
<b>* commandActiveCheck *</b>		
cmd_start_executing_host_checks	.set	ホストチェックを開始する
cmd_start_executing_svc_checks	.set	サービスチェックを開始する
cmd_stop_executing_host_checks	.set	ホストチェックを停止する
cmd_stop_executing_svc_checks	.set	サービスチェックを停止する
cmd_disable_host_check	.set	このホストの動作チェックを無効
cmd_disable_hostgroup_svc_checks	.set	特定ホストグループの全サービスチェックを無効にする
cmd_disable_host_svc_checks	.set	指定したホストの全サービスチェックを無効にする
cmd_disable_servicegroup_svc_checks	.set	指定したサービスグループ上の全てのサービスチェックを無効にする
cmd_disable_svc_check	.set	このサービスの動作チェックを無効
cmd_enable_host_check	.set	このホストの動作チェックを有効
cmd_enable_hostgroup_svc_checks	.set	特定ホストグループの全サービスチェックを有効にする
cmd_enable_host_svc_checks	.set	ホストの全サービスチェックを有効にする
cmd_enable_servicegroup_svc_checks	.set	指定したサービスグループ上の全てのサービスチェックを有効にする
cmd_enable_svc_check	.set	このサービスの動作チェックを有効
<b>* commandCheckResult *</b>		
cmd_process_host_check_result	.set	このホストのパッシブチェックの結果を送信
cmd_process_service_check_result	.set	このサービスのパッシブチェックの結果を送信
<b>4. その他</b>		
apiVersion	.get	API バージョン情報の取得
serviceGraph	.get	サービスの監視画像の取得

restart

.set X-MON 再起動

- 「fluentd」 sponsored by Treasure Data
- “Amazon Web Services”、アマゾン ウェブ サービス”、AWS”、Amazon EC2”、EC2”、Amazon Elastic Compute Cloud”、Amazon Virtual Private Cloud”、Amazon VPC”、Amazon SimpleDB”、SimpleDB”、Amazon S3”、Amazon Simple Storage Service”、Amazon CloudFront”、CloudFront”、Amazon SQS”、SQS”、Amazon Simple Queue Service”、Amazon Simple Email Service”、Amazon Elastic Beanstalk”、Amazon Simple Notification Service”、Amazon Route 53”、Amazon RDS”、Amazon Relational Database”、Amazon CloudWatch”、Amazon SimpleWorkFlow”AWS Premium Support”、AWS Import/Export”、Amazon FPS”、Amazon Flexible Payments Service”、Amazon DevPay”、DevPay”、Amazon Mechanical Turk”、Mechanical Turk”、Alexa Web Search”、Alexa Web Information Service”、Alexa Top Sites”、Alexa Site Thumbnail”、Amazon FWS”、Amazon Fulfillment Web Service”、Amazon Associates Web Service”、ならびにその他の AWS のグラフィック、ロゴ、ページヘッダー、ボタンアイコン、スクリプト、サービス名は、米国および／またはその他の国における、AWS の商標、登録商標またはトレードドレスです。
- The Chef? Mark and Chef Logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/ service marks of Chef, in the United States and other countries and are used with Chef Inc's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by Chef Inc.
- 「Twilio」は Twilio, Inc.の登録商標あるいは商標です。

Copyright © 2004-2014 X-TRANS, Inc. All Rights Reserved.